

シリーズ

世界の生物物理学②

第6回 IUPAP 国際生物物理学会議
(ICBP2007) が開催される

今年2007年8月27日-31日に、ウルグアイの首都モンテビデオで国際純粋応用物理学連合 (IUPAP) の Commission-6 (C-6: Biological Physics) の主催する 6th International Conference on Biological Physics (ICBP2007) が開催される。2001年夏に京都国際会館で開催した ICBP2001 (日本学術会議共催) を覚えてくださっている読者も多いであろう。本稿では、IUPAP の C-6 の活動状況を紹介し、ICBP2007 への参加を呼びかけたい。

1. IUPAP C-6: Biological Physics について

IUPAP は1922年に欧米と日本の13カ国の物理学会の代表がブリュッセルに集まって設立され、現在では、47の国と地域の物理学会と物理学を含む学術団体が参加する組織となっている。現在事務局は米国物理学会気付であり、2005-2008年の次期会長は潮田資勝・北陸先端科学技術大学院学長である。事務局の詳細は web ページ <http://www.IUPAP.org> を参照。

総会は3年ごとに開かれ、今回は2005年10月に南アフリカのケープタウンで開かれた。総会で次期理事会メンバーのうち会長、次期会長、副会長8名、事務局長、事務局次長の12名が選挙で選ばれる。理事会は13人で構成されるが、最後の一人は前会長である。理事会は毎年開催され、IUPAP 主催の国際会議を決定する。

IUPAP には20の Commission と3つの Affiliate Commission と、現在8つの Working Group がある。その中には、1999年発足の WG on Women in Physics もある。この WG の日本における活動は日本物理学会・日本応用物理学会が核になったが、それが発展して、2003年には「男女共同参画学協会連絡会」が結成された。現在、その会長は日本生物物理学会美宅成樹会

長を務めていることはご存じの読者も多いことだろう。もちろん、2005年を World Year of Physics と宣言したのも IUPAP である。

IUPAP と各メンバー国の物理学会との連絡窓口として Liaison Committee が設けられている。日本では日本学術会議内に設置されている。

IUPAP の財源の大部分は各国が毎年支払う分担金である。日本は15unit (1unit=1850ユーロ) の分担金を払っている。そのおかげで、総会では5票の投票権がある。IUPAP の支出の大部分は、IUPAP 主催の国際会議 (規模に応じて、大きな順に A,B,C の3ランクがある) への補助金である。

さて、Commission-6 が H.Frauenfelder らの努力で1990年に発足した Commission on Biological Physics である。この C-6 の第1回国際会議 ICBP は1993年にハンガリーのセゲド (Szeged) で、IUPAB の International Biophysics Congress (Budapest) のサテライトミーティングとして開かれた。その第4回が ICBP2001 (Kyoto) であった¹⁾。

ICBP の会場で C-6 運営会議が開かれる。その会議で開催中の ICBP の反省、次期の活動計画の審議、次期三役候補者の推薦などがなされる。次期三役候補者は IUPAP の総会で承認される。

2005-2008年の C-6 メンバーは次の通りである。

委員長: G. U. Nienhaus, Dept. of Biophysics, Univ. of Ulm, Germany

副委員長: Y. Husimi, Dept. of Functional Materials Science, Saitama Univ., Japan

事務局長: J. N. Onuchic, Dept. of Physics, Univ. of California at San Diego, USA

委員: M. Caselle (Italy), J. R. Grigera (Argentina), T. Hianik (Slovakia), J.-F. Joanny (France), A. B. Rubin (Russia), M. Steyn-Ross (New Zealand), V. Sundstrom (Sweden), L. Zymanyi (Hungary), N. Yathindra (India), F. Wuyts (Belgium)

2006年10月のプラハでの理事会で次の4名の准委員が加わるようになった。

H. Orland (France, C-3 統計物理代表), B. Gaulin (Canada, C-10 凝縮体物理代表), P. Laggner (Austria, IUPAB 代表), F. Nuesslin (Germany, AC-4 医療物理代表)

2. ICBP2007 について

2004年8月にスウェーデンのエーテボリ (Gothenburg) の第5回 ICBP2004 の折に開かれた運営会議で、第6回 ICBP2007 が J. Onuchic のリーダーシップでリオデジャネイロで開かれることが決定された。しか

し、しばらくしてブラジルでなく、ウルグアイのモンテビデオで2007年8月27日-31日に開催されることに変更された。第5回サザンコーン (Southern Cone) 生物物理学会議との合同会議である。サザンコーンとはブラジル、パラグアイ、ウルグアイ、アルゼンチン、チリからなる南米南地域をさす。組織委員会委員長はアルゼンチンの J. R. Grigera である。Grigera は昨年11月の沖縄での東アジア生物物理学シンポジウムに出席し、ICBP2007 を宣伝していった。IUPAP 理事会はこの会議を最高ランクの A タイプに認定した。

ICBP2007 では次のようなセッションが開かれる。

1. Single molecule studies
2. Nanotechnology and surface science
3. Biosensors and medical applications
4. Charge transfer in biomolecules, and photobiology
5. Structure and dynamics of biomolecules
6. Molecular machines
7. Physics of subcellular structure
8. Modeling of cellular process
9. Physics of the nervous system
10. Evolution and the origin of life
11. Complex systems in biological physics
12. General biological physics
13. Protein folding and disordered states
14. Energy transduction
15. Membranes and transport
16. Biological reactions, experiments and modeling

締め切り日は次のようになっている:

- 2007 年 2 月 28 日 旅費援助申請締め切り
- 5 月 20 日 IUPAP 若手科学者賞推薦締め切り
- 6 月 1 日 アブストラクト締め切り, 事前登録締め切り
- 6 月 30 日 ホテル予約, 社交プログラム予約締め切り

なお、プロシーディングスは ICBP2001 (Kyoto) 以来、*J. Biological Physics* の特集号として出版されているが、今回もその予定である。

会議の詳細は web ページ <http://www.icbp-2007.org.ar/> を参照。

なお、IUPAP 若手科学者賞とは IUPAP が昨年大部分の Commission で設定した賞で、C-6 では IUPAP Young Scientist Prize in Biological Physics のことである。今回が第1回であり、今後 ICBP 毎に若手研究者2名を表彰する。理論と実験各1名で、IUPAP から1000米ドルの賞金とメダルと賞状が贈られる。審査委員会は上記 C-6 運営会議メンバーで構成される。若手とは博士号取得後8年以内の研究者のことで、自薦はできない。運営会議メンバーは推薦者になれない。すなわち、筆者は推薦者になれないので、読者は周囲の若手をぜひ推薦してほしいし、会議に参加してほしい。賞の推薦手続きの詳細も上記 web ページに載っている。

文 献

- 1) 伏見 譲, 郷 信広, 生物物理 **239**, 32-35 (2002)

埼玉大学大学院理工学研究科 伏見 譲
husimi@fms.saitama-u.ac.jp